

日本海学 シンポジウム

「美しい富山湾を考える 一景観と暮らしー」

平成31年 2月11日(月・祝) 13:30~16:30

北日本新聞ホール(富山市安住町2-14)

入場
無料

基調講演

「富山湾から考える観光資源としての日本の海浜」

講 師：西山 徳明（北海道大学観光学高等研究センター センター長/教授）

パネルディスカッション

「日本海の海と観光を語る」

コーディネーター：秋道 智彌（山梨県立富士山世界遺産センター 所長、日本海学推進機構 会長）

パネリスト：西山 徳明（北海道大学観光学高等研究センター センター長/教授）

清野 聰子（九州大学工学研究院環境社会部門 准教授）

中井 精一（富山大学人文学部 教授）

2019.10.16 wed ~ 10.20 sun
「世界で最も美しい湾クラブ」
日本初 富山県総会開催



2014年10月、富山湾の「世界で最も美しい湾クラブ」への加盟が承認されました。

「世界で最も美しい湾クラブ」とは…

ユネスコが支援する非政府組織(NGO)で、世界遺産のフランス・モンサンミッシェル湾、ベトナム・ハロン湾など、世界の選ばれた44湾(26カ国・1地域)が加盟し、湾を活用した観光振興と資源の保全を目的に活動しています。(1997年設立)

日本海学 シンポジウム

「美しい富山湾を考える —景観と暮らし—」

平成31年 2月11日(月・祝)
13:30~16:30

北日本新聞ホール
(富山市安住町2-14)

入場
無料



※なるべく公共交通機関をご利用ください。
※富山駅より徒歩10分、または市内電車「県庁前」電停より徒歩1分

お問い合わせ・お申し込み

氏名、住所、郵便番号、電話番号を明示のうえ、ハガキ、電話、FAX
またはE-mailで下記へお申し込みください。

日本海学推進機構

〒930-8501 富山市新総曲輪1-7 (富山県観光振興室内)

TEL 076-444-3339 / FAX 076-444-4404

E-mail adm@nihonkaigaku.org

日本海学とは

日本海とその周辺および関係地域全体を、生命の源である海を共有する一つのまとまりとしてとらえ、海との関わりを軸にその自然・文化・歴史・経済などを総合的に研究し、新たな領域を創成するとともに、地域間の交流を促進し生命の輝きが増す未来を構想する取り組みです。

ホームページ▶<http://www.nihonkaigaku.org/>

基調講演 13:40~14:40

富山湾から考える観光資源としての日本の海浜

講 師：西山 徳明 (北海道大学観光学高等研究センター センター長/教授)



福岡市生まれ。京都大学工学研究科大学院修了。博士（工学）。専門は都市計画、文化遺産マネジメント、ツーリズム。文化審議会第三専門調査会／歴史文化基本構想に関する検討委員会（文化庁）、国土審議会北海道開発分科会（国交省）、日本エコツーリズム大賞選考委員（環境省）、JICA課題別支援委員（観光分野）、UNWTOスペシャルアドバイザー、萩市・竹富町等の伝統的建造物群保存審議会、太宰府市景観・市民遺産会議、等委員。JICA事業を通じてフィジー、ヨルダン、ペルー、イラン等で観光開発国際協力に従事。所属団体は日本都市計画学会／理事（北海道支部長）、日本建築学会、ICOMOS、NPO日本町並み保存連盟（理事）など。

パネルディスカッション 14:55~16:30

日本海の海と観光を語る

コーディネーター：秋道 智彌 (山梨県立富士山世界遺産センター 所長、日本海学推進機構 会長)



京都府生まれ。京都大学理学部動物学科卒業、東京大学大学院理学系研究科人類学専攻博士課程修了。理学博士。国立民族学博物館民族文化研究所副所長、総合地球環境学研究所副所長、研究推進戦略センター長を経て現職。現在、日本海学推進機構会長。海洋政策研究所特別研究員。専門は、生態人類学。海洋と人類の多様な問題を多角的な視点から調査・研究している。近著としては、「交錯する世界—自然と文化的脱構築」（編著、京都大学学術出版会）、「食の冒険」（昭和堂）、「魚と人の文明論」（臨川書店）、「サンゴ礁に生きる海人」（榕樹書林）、「越境するコモンズ」（臨川書店）ほか多数。

パネリスト：西山 徳明 (北海道大学観光学高等研究センター センター長/教授)

パネリスト：清野 聰子 (九州大学工学研究院環境社会部門 准教授)



東京大学農学部水産学科卒業。同大学大学院農学系研究科水産学専攻修士課程修了。東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻博士課程進学。東京大学大学院総合文化研究科助手、助教を経て現職。農学修士（水産学）、博士（工学）。専門は、沿岸・流域環境保全学、水生生物学、生態工学。沿岸の開発と保全の調整・合意形成、希少生物生息地の保全や再生、地域住民や市民の沿岸管理への参加、地域の知恵や科学を活かした海洋保護区を研究。国や地方自治体の海岸や水関係の環境計画や法制度形成に多く参画。対馬暖流域海洋保護区ネットワークを提案。主な共著書に『海辺に親しみ』『消えた砂浜』『川と海一流域圏の科学』『イカの春秋』『水産海洋学入門』など。日本水産学会水産環境保全委員会委員、土木学会企画委員会副幹事長、国際自然保护連合希少生物専門委員。

パネリスト：中井 精一 (富山大学人文学部教授)



奈良県生まれ。大阪外国语大学大学院修了。博士（文学）（大阪大学）。天理大学附属天理参考館を経て、1998年より富山大学人文学部に。専門は日本語学・社会言語学で、国内はもとより、ミクロネシアや南米でも調査を行っている。主な著書は、「都市言語の形成と地域特性」（和泉書院（2012年））、「関西弁事典」（ひつじ書房（2018年））などがある。また最近の論文には、「民俗世界における食の地域性と方言圈—北陸地方の稚煮に注目して—」（「交錯する知 衣装・信仰・女性」思文閣出版（2014年））、「富山湾 美しく豊かな海」『BIOSTORY』26号（2016年））がある。

生き物文化誌学会

日本海学シンポジウム 参加申込書 (FAX、郵便でお申し込みの場合にご利用ください。)

FAX 076-444-4404

ふりがな 氏名	代表者 住 所
ふりがな 氏名	
ふりがな 氏名	電 話

※ 講義券は配布いたしませんので、申し込みされた方は当日直接会場にお越しください。